万国外科学会（ISS/SIC）日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会（ISS/SIC）日本支部
〒160-8582　東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科学教室
TEL:03-5363-3802　FAX:03-3355-4707
発行者：北川雄光
編集責任：万国外科学会（ISS/SIC）日本支部事務局長
和田則仁（慶應義塾大学医学部外科学教室）
印　刷：株式会社 dig　TEL:03-3551-3060
年2回発行 1995年4月創刊

Invitation Letter to ISS/SIC Japan Chapter 46th World Congress of Surgery 2015 / WCS2015

Supakorn Rojananin
President of the Organizing Committee of WCS2015

Dear Members of the Japan Chapter of the ISS/SIC and Collegues

On behalf of the Local Organizing Committee of the World Congress of Surgery 2015 (WCS 2015), I wish to extend a personal invitation to our Japanese friends, colleagues, surgical trainees and medical students to participate in the WCS 2015 which will take place at the Centara Grand, Central World, Bangkok, Thailand, from 23-27 August 2015. The Congress is jointly organized by the International Society of Surgery (ISS/SIC) and the Royal College of Surgeons of Thailand (RCST).

The scientific program will feature a selection of topics from various major surgical specialties including sessions on surgical education and collaboration, surgical patient safety, humanitarian activities, poster presentation and free paper presentation. Social functions will be arranged to tighten the bonds of friendship among participants from around the world.

Complementing the scientific program are the following pre-congress workshops and activities on offer, organized by local and integrated societies:

1) DSTC Workshop
2) Laparoscopic Colorectal Surgery Hands-on Workshop – in cadaver
3) Bariatric Surgery Workshop (- in soft cadaver)
4) Upper GI and Hernia Workshop
5) Endoscopic Thyroidectomy Workshop
6) Oncoplastic Breast Surgery Workshop
7) Breast Ultrasound Course
8) Surgery of Pelvic floor in Pelvic Floor Descent Syndrome Workshop
9) Medical Student Activities: Born to be a Surgeon(free of charge)

To my acknowledgement, Japanese surgeons always attend the congress in a greater numbers and played an active role on each of previous congress and in their home in Yogohama 2011. Therefore, I would like to ask for your kind support and hope to see as many as possible of Japanese delegates coming to Bangkok in this August.

Your coming will truly enhance a greater collaboration, friendship, sharing of experiences and get together more closely. We are providing welcome party, dinner party for each society, presidential dinner for invited guests, and spectacular Thai Night Banquet.

Medical students all around the world who are interested in Surgery (born to be surgeons) are also welcome, so do the Japanese medical students. Joyful educational events are waiting for you all. Open house to the most famous medical schools in Thailand is also provided.

Several sightseeing tours including pre- and post-congress tours both inside and outside Bangkok have been arranged for accompanying persons and guests, for example, Ayudhya, Sukhothai, Chiang Mai, Chiang Rai, Phuket, Samui, Krabi, and Pattaya.

The Congress is expected to attract more than 2,000 participants from all over the world as well as local Thais. Since the topics will cover all disciplines in surgery, we cordially welcome all surgeons, surgical trainees, surgical nurses and medical students.

For more information and registration details, please visit our website at www.wcs2015.org .

In addition, should you wish to participate as moderator, chairperson, co-chairperson and/or speakers in any specialties, please feel free to contact me directly or ISS.

We are looking forward to welcoming you at the WCS 2015 in Bangkok to join us in making this event a great success and a memorable event for you all.

Sawasdee Krub and best regards,

Supakorn Rojananin, MD
President of the Organizing Committee of WCS2015

Workshop Venues;
Faculty of Medicine Siriraj Hospital, Mahidol University, Bangkok, Thailand

Workshop Venues;
King Chulalongkorn Memorial Hospital, Faculty of Medicine, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand

Congress venue
Centara Grand & Bangkok Convention Centre at Central World

World Congress of Surgery (WCS2015) 23-27 August 2015, Bangkok Thailand

INTERNATIONAL SOCIETY OF SURGERY (ISS/SIC)　ROYAL COLLEGE OF SURGEONS OF THAILAND

主な日程

8月23日(日)	16:30	開会式　18:00　オープニングレセプション
8月24日(月)	8:00	ISS/SIC Travel Scholar /Yokohama Award受賞者表彰
		ISS/SIC プレジデント講演
	10:30-	学術集会
	17:00-18:00	ISDS Kitajima Prize Session
	夕	Japan Night（予定）
8月25日(火)	8:30-	学術集会
	19:00	IAES, IATSIC, IASMEN, BSI, ISDS, WOFAPS　各学会夕食会
8月26日(水)	8:30-	学術集会
	夕	Suan Sam Phranナイト（於ローズガーデン）
8月27日(木)	8:30-	学術集会　10:30　Grey Turner講演
	11:15	ISS/SIC総会　19:00　閉会

詳細につきましては、WCS2015のウエブサイトをご覧ください。
http://www.wcs2015.org/home
日本支部のウエブサイトにも随時情報を掲載します。
http://iss-sic.umin.jp/

大きな変革を迎えつつある万国外科学会

慶應義塾大学医学部外科学　教授
万国外科学会理事 ISS/SIC Councillor、日本支部長 National Delegate of Japan Chapter
北川　雄光

伝統ある本学会の日本支部長を山川達郎先生から引き継がせていただいて、早くも8年が経過し、4年間の理事の任期も本年8月にタイのバンコクで開催される第42回 World Congress of Surgery をもって終了となります。約20年にわたり様々な思い出を作ってくれた、本学会との関わりも私にとって一つの大きな節目を迎えました。まず、最も心に残る思い出は、現在本学会名誉会員であられる北島政樹先生が、2001年ベルギーのブリュッセルで開催された学術集会で、栄誉ある Grey Turner Lecture の講演者に選出され、教室を挙げて参加したときの誇らしい記憶です。その前年、2000年に第100回日本外科学会総会を主催し、教室全体が高揚感にあふれている時でした。この時には同じく本学会名誉会員であられる比企能樹先生が様々なサポートをしてくださったことを思い出します。その後、本学会の公式学術誌である World Journal of Surgery の当時の Editor in Chief であった Thompkins 教授に招集され、ニューヨークの Springer 社本社で、いかに若手外科医にとって魅力的なジャーナルにするか、いかに若手の会員を増やすかについて討論しました。日本の若手外科医として私が、若手教授（当時）として現大分大学学長北野正剛先生が招集されました。今回、次期万国外科学会理事、日本支部長を北野先生に大変なご多忙のなか快くお引き受けいただけたのは、望外の喜びであります。

また、2011年 LOC President 渡邊昌彦先生はじめ多くの日本支部の皆様のご尽力で、日本で開催された International Surgical Week が大成功をおさめたのは大きな思い出です。大震災の直後で開催そのものが危ぶまれる中、横浜を舞台に多くの参加者が日本を支える気持ちで集ってくれました。お陰様で若手外科医の本学会への参加を奨励する Yokohama Award の基金もできました。

さて、万国外科学会も大きな曲がり角にさしかかっています。まず2年に一度の学術集会の名称を International Surgical Week から World Congress of Surgery に変更し、学会名も変更が予定されています。伝統ある名称を一新することでどのような影響が出るか理事のあいだでも意見が分かれています。また、これまで34年間事務局責任者を務めた Victor Bertschi 氏が本年12月末をもって退任することになりました。私にとりましても2001年にニューヨークの Springer 本社での会合に参加したとき、ヤンキースの試合に一緒に行って以来の親しく、長い付き合いです。今回、私はじめ地域代表理事任期満了にあたり、財政難を考慮して理事数を減らすためにも理事は地域代表ではなく Integrated Society 代表のみで構成するべきだとの意見も出される中、これまでの日本支部の多大なる貢献を強調し、サポートしてくれたのが Victor でした。長年の功績と、日本支部への支援に心から感謝しています。

Victor Bertschi氏の訪日で日本支部事務局のスタッフと
2011年12月品川にて

本学会は、会費を納入する会員数が徐々に減少し、若手の入会が伸び悩んでいます。学術集会の性質上、最新情報が発表される場ではないのも一つの原因です。近年は、ISS Academy と称して、開発途上国での外科医育成プログラムの実践に力を入れています。日本支部は、学会参加、学術誌への投稿いずれにおいても最大の牽引車となっていますが、今後は日本の中堅、若手が世界各地を訪れて、リーダーシップをとれるような場を設けたいと考えています。まずは、私の活動を支えてくださった万国外科学会日本支部の先生方に心から御礼を申し上げたいと存じます。8年間誠にありがとうございました。そしてこれからもご指導、ご支援よろしくお願い申し上げます。

Victor Bertschi氏 の後任事務局長と

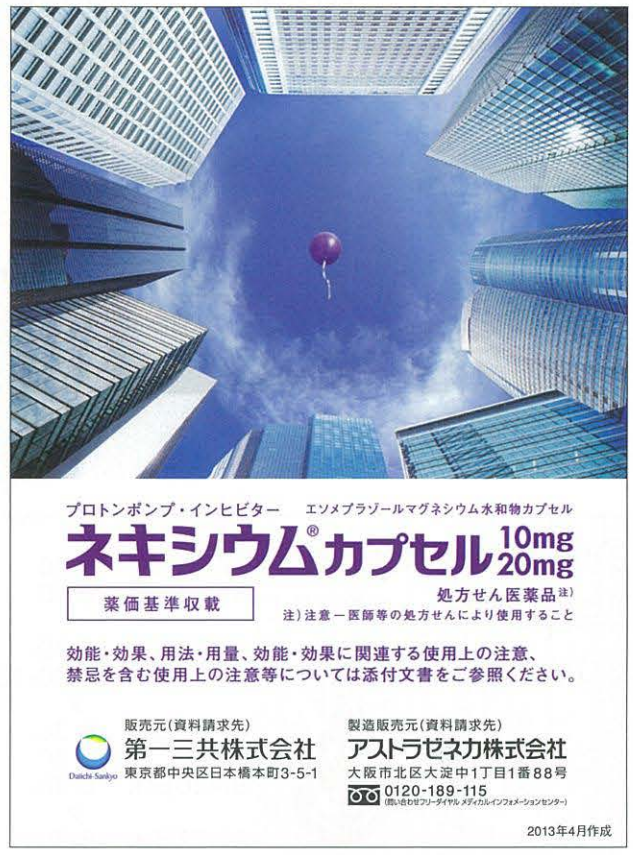
若き外科医へ
—国際学会発表のすすめ—

鹿児島大学消化器・乳腺甲状腺外科　教授
夏越　祥次

万国外科学会は100年以上の歴史を有する学会であり，私自身も何度か参加させていただいてきました．中でも，渡邊昌彦 LOC 会長のもとで，ISW 2011 横浜が東日本大震災後に開催され，大成功裡に終了したことは記憶に新しいところです．その余剰金で若手外科医の支援プログラムとして学会参加へのグラント（Yokohama Award）が設立されました．対象は40歳以下で oral の演題を応募することが条件です．若い外科医が積極的に国際学会に発表する機会を提供することに大賛成です．最近の若い先生は，教育の充実や海外留学の経験などにより，非常に流暢に英語を話す先生も見かけます．しかし，国際学会での発表を見ると，ポスター参加が多く，アジア諸国の若手医師に比べ，まだ活発な討論ができていないように思います．

さて，私が最初に国際学会で発表したのは，卒業後6年目に韓国で開催された The 8th Asia Pacific Cancer Conference で oral の発表でした．何度も発表原稿を練習し，想定質問と回答を考えて臨みました．ラッキーなことに座長の一人は日本のS教授でした．発表を何とか終え，討論になった時，インドの医師から早口で流暢すぎる？　英語で質問がきました．ほとんど理解できずに，単語の一部を捉えて，想定した質問の回答を思い出して答えましたが，的を射ていませんでした．その時に座長のS教授が助け舟を出して下さいました．「貴方の質問はこういう意味か？」と問われたところ，「No！」と言い放ち，さらに凄まじい速さで質問をしてきました．結局，「フロアーで討論しなさい」ということで終わってしまいました．私の国際学会のほろ苦いデビュー戦でした．引き続き，ウイーンに移動して，XIth International Congress of Lymphology で発表しました．リベンジを誓い，壇上に上りましたが，質問はなく終了しました．安堵と物足りない気持ちが交錯していました．その夜，ビルロートが切除した胃を見ることができ，大変興奮しました．また懇親会ではヨーロッパのワインと食事を堪能でき，後日のウイーン市内観光は歴史の重みを感じながら，日本とは異なる光景に感動の連続でした．食事や観光は，日頃の臨床・研究や発表までの努力に対するご褒美と思い，また頑張ろうと心を新たにしたのを覚えています．

このような自分自身の体験を通じて，若い時に国際学会で発表して，刺激を受けることは非常に重要と考えます．毎回のことですが，英語の重要性を認識し，ある時は留学のチャンスにつながるかもしれません．また，留学先でお世話になった先生と再会の機会や，臨床や研究に関して同じ志を持つ世界の仲間と出会う機会にもなります．Yokohama Award は今後の日本を担う若い外科医にとって素晴らしい企画であり，積極的に応募していただきたいと思います．そして自らの研究成果を世界に発信して，更に飛躍されることを願っています．



World Congress of Surgery の思い出と我が人生

医療法人鉄蕉会　亀田総合病院　副院長
加納　宣康

2年に一度開催されるISS（万国外科学会）の総会であるWorld Congress of Surgeryに、私がはじめて参加したのは1989年のトロントでの大会でした。

この学会では、何でも屋の私は“Radical Mastectomy with Blood Loss less than 50ml”といタイトルの乳癌の根治的乳房切断術のビデオを出しました。前年の日本臨床外科学会で同じ演題名で手術ビデオを提出したら、司会の櫻井健司先生から、「ほんとうにきれいな術野で、手袋にも全く血液がついていないのがわかります。素晴らし手術手技で、羨ましい限りです」とお褒めの言葉をいただきましたので、調子に乗って国際学会でも見せようと思ってWCSに応募したのでした。

当時、大変忙しい松波総合病院に勤務していて、時間のやりくりが大変でしたが、何とか後輩達の応援を得て出席、発表することができました。そのころ、世界の潮流は乳房温存手術に傾きつつあったのですが、私は頑固に大きく切除する手技に拘り、さらにそれをこんなにも出血させない綺麗な術野でやっているぞ、ということを見せたかったのでした。

ビデオを観た聴衆の皆様のご意見の中では、「手術はものすごくうまいと認める。しかし、出血量を減らすことよりもこれからは切除する臓器を減らすことを考えたらどうですか」というコメントが多かったと記憶しています。

この大会ではフランス人医師がlaparoscopic cholecystectomyのビデオを出していました。私も興味を持って観ましたが、その時の感想は「めんどうくさいことをやる奴がいるものだなあ。こんなの一般化するとは思えないなあ」というものでした。

ところが1年も経たないうちにこの術式が野火のごとき勢いで広がっていくのを見て、私は「これはいかん。おれもこの流れに乗らないと外科医として使いものにならなくなってしまう」との恐怖感を抱いて、松波総合病院でもできるようにしようと決断し、大急ぎで準備に入ったのでした。

1991年2月には松波総合病院での第1例目の腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行して、その後、この領域に興味が広がり、1991年5月に帝京大学医学部附属溝口病院外科へ転職したのを機に腹腔鏡下手術領域での臨床研究に力を入れるようになりました。1997年のアカプルコの大会での発表は腹腔鏡下手術に関するものでした。

発表時点ではすでに亀田総合病院へ移っておりましたが（1996年5月に移動）、毎日手術に追われる中、発表の準備をして参加・発表いたしました。アカプルコの海で海水浴を楽しんだのがよい思い出でしたが、帰国する日に、同じ海岸で前日ピックルマイヤー先生がお亡くなりになったと聞いて驚きました。確かに海の波は海水浴場にしては荒かったです。心筋梗塞を起こしての溺死であったと後に聞きました。

次に印象に残っているのが2005年のダーバン大会です。これまで学会へ行ってもほとんど観光をしたこのない私でしたが、本大会では同行した小西敏郎先生と下村一之先生のお誘いで、ジンバブエのサハラパークへ行きました。今でもビクトリアの滝の虹をよく覚えています。

2009年のアデレード大会では、これまで家族を学会旅行に連れていったことのない私が、「今まで父ちゃんは仕事ばかりでまったく子どものことをかまってやれなかった詫びに、オーストラリアへ連れて行ってやる」と言って、大学卒業前の長男と「旅行をした」という事実を作ったのでした。

とにかく、ISWは所々で私の人生を変える大きなきっかけを与えてくれた学会であったと、懐かしく思い出しています。

モントリオールで高橋俊雄先生と。

2005年ダーバンで：1993年にACSで共にInternational Guest Scholarに選ばれた南アフリカのSandy Latherford(スコットランド人)に再会。

ジンバブエのサファリパークで、小西敏郎先生、下村一之先生と共に

第38回万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会 議事録

2014年11月22日（土曜日）午前7:15～8:00
於：ホテルハマツ　8F　スカイバンケット

出席者：井本　滋，岩中　督，遠藤　格，片田夏也，加納宣康，北川雄光，北島政樹，北野正剛，小林道也，坂井義治，島田英昭，鈴木眞一，田尻　孝，富田涼一，夏越祥次，馬場秀夫，比企直樹，平田公一，藤田 尚，堀口明彦，前田耕太郎，松原久裕，宮内 昭，宮澤光男，村尾佳則，守瀬善一，山口明夫，吉田和弘，若井俊文，和田則仁
（敬称略　五十音順　計30名）（事務局　奥田京子）

1. 開会の挨拶　北川雄光日本支部長

2. 前回議事録の確認

3. 事務局からの報告　支部活動の報告。

4. ISS/SIC理事会報告　北川日本支部長：本部の事務局長を34年間務めたVictor Bertschi氏の来年末引退を始め、本部で動きがある。2015年のISS/SICの学会より、学会名称がInternational Surgical Week（ISW）からWorld Congress of Surgery（WCS）に変更となっている。機関誌名がWorld Journal of Surgeryであることもあり、ISS/SIC自体の名称もWorld Society of Surgeryに変更するという提案があり審議中である。日本支部としては、長年親しまれた名前であり、別の新しい学会と誤認される恐れもあるため、ISS/SICの名称変更はしないほうがよいという意見を提出している。日本支部のNational Delegate（支部長）および本部のCouncillor（理事）の任期が2015年8月バンコクの学会で満了となる。後任候補について先生方の意見を拝聴した結果、大分大学学長　北野正剛先生を推薦したい。承認。Integrated Society（IS）の数が増えるに従い、理事会に出席する各IS代表も増え、3月スイスでの理事会出席者へのISS/SIC本部による旅費支出が増大している。ISS/SICは財政的余裕がなく、任期満了の理事の後任を選任せずに、理事数を削減する案が審議中である。理事は実質的に地域代表の形となっており、これが撤廃されると理事会には日本からの代表がいなくなる。日本のISS/SICへの貢献は非常に大きく、日本からの代表が存続されるよう、ISS/SIC会長、次期会長、事務局長宛てに、陳情および北野先生推戴のレターを送っている。

北野正剛先生：ISS/SIC日本の代表となった際には、微力ではあるが、これまでの先生方の功績を継承し、日本からの発信に努力したい。

5. World Congress of Surgery（WCS）2015バンコクについて　北川日本支部長：2015年8月23日～27日までタイのバンコクで開催される。全体懇親会のThai Nightは、3日目26日の夕刻、Rose Gardenという大変有名な観光地で行われる。会場まで距離があるためバスが運行される。日本支部の会、Japan Nightは23日または24日の夕刻に行う予定である。日本からの若手の参加を奨励するため、ISW2011横浜の余剰金によるYokohama Awardを今回も募集するので応募してほしい。WCSのシンポジウム等の座長について、日本支部から推薦する先生のリストを送った。また、抄録締切後、多くの抄録がでている教室の先生には、座長の依頼をしたいと考えている。8月24日午後4時にISDS Kitajima Prizeのセッションがある。

北島政樹先生：Kitajima Prizeは40歳以下の若手が対象。賞金は2000ドルで、前回の第1回はシカゴ大学のドクターが受賞している。教室の若手に応募を奨励していただきたい。タイの政情について懸念があるが、国際医療福祉大学と提携をしているバンコクのクリスチャン大学学長一行の訪問を受けた際、軍政になりむしろ政情は安定しているとの話であった。

6. Integrated Societiesについて

IAES宮内昭先生：IAESは会員数約150、うち日本人は約50人と大きな会ではないが、参加率が高く毎回300人以上の出席がある。WCS2015においては既に日本人にも座長の指名がきており、私はState-of-Art lectureという名誉ある講演を務めさせていただく。

IATSIC 藤田尚先生：本年6月Ken Boffard先生を招き、Definitive Surgical Trauma Care（DSTC）Courseを開催する。

ISDS北川日本支部長：ISDSの副会長を拝命している。John Hunterを中心に引き続き活動を続けている。

7. 機関誌（WJS）について　北川日本支部長：外科としては一般誌であり、Impact Factorは伸び悩み気味であるが、一定の地位を保っている。若手の先生が投稿するにはよい雑誌なので投稿されたい。

8. 次回支部総会日程について

次回の総会は恒例どおり日本外科学会最終日早朝を予定している。

以上（文責　和田則仁）

会員動向

（2015年3月1日現在）

会員数		371名	
内　訳	正規会員	336名	（2014年新規会員7名）
	シニア会員	32名	
	名誉会員	3名	

支部活動報告（2014年1月～12月）

2014.4.1	万国外科学会（ISS/SIC）日本支部ニュース第38号発行
2014.4.5	第37回万国外科学会（ISS/SIC）日本支部総会（於:京都 グランドプリンス京都）
2014.11.1	万国外科学会（ISS/SIC）日本支部ニュース第39号発行
2014.11	ISS/SIC理事推戴　北野正剛先生推薦状作成とISS/SIC会長・次期会長・事務局長への提出
2014.11.22	第38回万国外科学会（ISS/SIC）日本支部総会（於：郡山 ホテルハマツ）
2014.12	Yokohama Award第2回（WCS2015バンコク）募集

ISS/SIC日本支部2014年度決算

2014年度収支決算書　（2014年1月1日～12月31日）　ISS/SIC

日本円の部　単位：円

Ⅰ収入の部	予算額	決算額	備考
会費	962,000	1,017,870	7400ユーロ
広告掲載料	700,000	750,000	
寄付	0		
雑収入	0	1,515	
当期合計	1,662,000	1,769,385	
前年度繰越金	9,699,272	9,699,272	
収入合計	11,361,272	11,468,657	
Ⅱ支出の部			
会議費	380,000	244,787	支部総会開催（春・秋）
通信費	180,000	112,534	
印刷費	460,000	382,144	支部ニュース38号・39号
文具費	10,000	13,655	
交通費	100,000	89,600	
人件費	420,000	420,000	
雑費	12,000	11,052	
予備費	100,000	0	
支出合計	1,662,000	1,273,772	
収支残高	9,699,272	10,194,885	（次年度繰越金）

ユーロの部　単位；ユーロ

Ⅰ収入の部	予算額	決算額	備考
会費	8,700.00	9,561.60	
利息	0	0.84	
前年度繰越金	6,340.97	6,340.97	
収入合計	15,040.97	15,903.41	
Ⅱ支出の部			
日本円へ預替	7,400.00	7,400.00	
スイス本部寄付	1,300.00	1,300.00	
支出合計	8,700.00	8,700.00	
次年度繰越金	6,340.97	7,203.41	

残高　日本円10,194,885円（通帳残高10,203,696円＋現金△8,811円）
ユーロ7,203.41ユーロ（通帳残高7,203.41ユーロ）

ISS/SIC 万国外科学会　日本支部
2015年1月23日　監事 田尻 孝 印
2015年1月14日　監事 田中雄夫 印

ISS/SIC日本支部2015年度予算案

2015年度　予算案　（2015年1月1日～12月31日）　ISS/SIC

日本円の部　単位：円

収入の部	予算額	備考
ユーロから預替	1,066,000	8200ユーロ　1ユーロ=130円で計算
広告掲載料	700,000	
寄付	0	
雑収入	0	
利息		
当期合計	1,766,000	
前年度繰越金	10,194,885	
収入合計	11,960,885	
支出の部		
会議費	380,000	支部総会2回分
通信費	150,000	
印刷費	500,000	支部ニュース2回発行分
文具費	10,000	
交通費	120,000	
人件費	480,000	
雑費	26,000	
予備費	100,000	
Yokohama Award賞金	500,000	10万円×5名
支出合計	2,266,000	
収支残高（次年度繰越金）	9,694,885	

ユーロの部　単位：ユーロ

収入の部	予算額	備考
会費	9,500.00	
利息	0	
繰越金	7,203.41	
収入合計	16,703.41	
支出の部		
日本円へ預替	8,200.00	
スイス本部寄付	1,300.00	
支出合計	9,500.00	
次年度繰越金	7,203.41	